

新學期行進曲

海野十三

青空文庫

第一景 勉強組合

△騒然^{そうぜん}たる中学校の教室の音響——「やい亀井^{かめい}」 「なんだ

松岡」 「随^{ずい}分^{ぶん}黒いぞ」 「黒くておかしいかい。やい白

ん坊」 「なんだ黒ん坊」 などの早い会話のやりとりを遠く聞かせる。それに交^{まじ}って、床をドタ靴でふみならしながら、愛国行進曲を口笛で吹いているのが聞える。

△始業^{しぎょう}のサイレンの音——更に遠くに聞える。

△扉^{ドア}をドーンとついて、また新たに教室へとびこんで来る

生徒の靴音、鞆を投げつける音、それに交って「あれ、おれの席はどこだ」「おい吉田吉田こつちだこつちだ」

「やあ変だなあ、こんなところに僕の机が……」などと

きゆうくちよう

急口調の話声。

生徒 えびはら 蝦原 あつ先生だ……。

△扉がガチャリとしまる音

先生 えっへん

一同、たちまちしーんと せいしゆく 静 肅 になる (間ま)

先生 (出席簿をバタバタ開けたりしめたりしながら) ああア皆さん。このクラスは相変らず元気者ぞろいじゃのう。夏休み中は、さぞやさぞ楽しいことであつたらう。先生などは夏休み中、

すこし気にかかることがあつて（といつてはつと気がつき）あ
あむにやむにや、えつへん。——ああア、そこで新学期の始め
に一つ、クラス全体に苦言くげんを呈ていしておく。

△生徒大勢がガヤガヤと不安の気配けはい

先生 ああア、どうじゃ、このクラスはなかなか元氣者揃むじやきものぞろいであつて、先生はよいクラスじや
り、また中々無邪氣者揃むじやきものぞろいであつて、先生はよいクラスじや
と思つとるが、ああア、一つ感心せんことがある。それは——
それはじゃ、近來宿題をやらせても大分出来が悪いし、試験を
やつても、これまた答案の出来が悪い。どうもこれは困つた傾
向じゃ。

生徒一同。しーんとしている（間）

先生（励れいせい声一番）これ思うに、このクラスの皆が戦争ごっこに夢中になっていて、勉強の方をとんと怠おこたっているからじやと思う。戦争ごっこ、必ずしも悪くはない。しかし勉強を第一とせんけりやならん。お前たちはまずなによりも生徒であるのじやからな。出征兵士は敵兵をたおすのが任務であるごとく、生徒は勉強するのが任務じや。お前たち第二国民が今勉強を怠つて居ると次の時代に於いてこれがどんな風に響くと思うか。次の時代に戦争が起つたときにや、不勉強のおかげで敵軍を撃破するに足る優秀な戦車が出来なかつたり、また優秀な飛行機が作れなかつたりして、ベそをかかんけりやならん。つまり学問の力で外国に負けるぞ。まことに由ゆ々ゆしき一いち大だい事じではないか。

廊下にあわただしき靴音、扉ドアひらく音。

給仕 (息をはずませながら) あ、大山先生。お宅から電話です。

すぐお帰り下さい、ですつて。

先生 (おどろき) ええつ、な、な、なにごとか起つたというのか。

給仕 先生のお宅で赤ちゃんが生れそうですつて。

生徒一同、うわーつと喚かんせい声をあげ机を叩き床を踏みならす。

先生 えつ。とうとう始まつたか。それはまことに由々しき一大事。

生徒一同うわーつ。

先生 これこれ(と生徒を制しながら) 皆よろこんでくれ、先生

のところでは十五年ぶりに、ついに赤ん坊が生れるのだ。神様が赤ん坊をさずけたもうたのだ。戦争で、尊とうとい兵士は死ぬ、国力は減る、それを補おぎなうのは赤ん坊の誕生だ、笑い事ではない。先生の家には留守番がないのだ。ちよつといつてくる、静せいしゆ粛くにしているんだぞ。

先生の靴音去る、扉の音。

級長 まことに由々しき一大事か。

こんどは誰も笑うものがない（間）。

級長 ねえ皆。新学期早そうそう々、これはまことに由々しき一大事だ。

僕たちは、たしかに生徒たる本分を忘れていたようだね。

生徒、賛さんび否ひ両論ガヤガヤ。

級長 どうだ皆、こうしようじゃないか。この由々しき一大事を突破するために、わがクラスは勉強組合というのを作ろうじゃないか。

生徒ガヤガヤ。

生徒 勉強組合ってなんだ。

級長 勉強組合というのはね、放課後、皆で学校に残るんだ。

生徒 残って、何をするんだ。

級長 残って、皆でその日習ったところを復習するんだ。復習するだけじゃない。委員をきめて、模擬試験もぎをやるんだ。そして出来ない奴があつたら、皆して分るところまで教えっこするんだ。

生徒 放課後は運動したいね。体力をつけることも、第二国民に

は大事なことなんだぜ。

生徒大勢「そうだそうだ」

級長 じゃ夕飯ゆうはんがすんでから、誰かの家へ集ってやることにしよう。僕の家うちの会社に広い会議室があるから、お父さんにいつてあそこを貸してもらおうや。

生徒 うまくゆくかなあ。

級長 きつとうまくゆくよ。

生徒 でも蝦原えびはらのような出来ないやつは、いくら教えたつて出

来やしないよ。

級長 なあにきつと、うまくゆかせるよ。僕にや、まだとつて置きのいい手があるんだ。この手でやれば、どんなに出来ないや

つだって、出来るようになるぜ。つまりこういう風に……。

場面一転する感じの出る音楽。

生徒ガヤガヤ。

遠く自動車の警笛^{けいてき}、口笛を吹いている行人^{こうじん}、など街の騒^そ音^{うおん}。

級長 外が騒々しいね。暑いけれど、窓を閉めよう。

窓を閉める音。

生徒 あつ、出来た。これでいいんだろう。Xは5でYは3、Zは12や。

級長 ええ、ちよつとかしてごらん、Xは5、Yは3で、Z……

こか。よし答は合^あっている。ほら、キャラメル一個だ。

生徒 (よろこんで) ああサンキュウ、これでキャラメルは五ツ

目だ。(と、口の中へ放りこんでピチャピチャなめる) やあ蝦え

びはら原が泣いてらあ、蝦原、出来ないのか。

蝦原 (くすんと鼻をすすり) なんべんやつても出来ねえ。

生徒 ちえつ、ちよつと見せてごらんよ。あれ、まだ二番じやないか。

蝦原 ああ、そうだよ。僕なんか、まだキャラメルを一個しか喰べていないんだ。

生徒 そりや仕方ないよ。だってまだ一題しきや出来てないんだもの。今日代だいすう数の時間、君は飛行機の絵ばかり書いていたじやないか、あれじゃ駄目だよ。

蝦原 なにが駄目だい。

級長の足音。

級長 ああつ、君たち喧嘩なんかしちやいけないよ。

生徒 ねえ蝦原えびはらはやっぱり出来ないんだよ。まだ二番の問題で、

ひっかかっているんだ。君教えてやり給え。

級長 よし。蝦原、どこまでやったんだ、あつ、これじゃ駄目な

んだ。君は公式を忘れていているんだ。だから出来ないんだ。さつ

き教えてやったじゃないか。Aの二乗にじよう、マイナス、Bの二乗

を因数分解いんすうぶんかいすると、さあどうなる？

蝦原 えーとAの二乗、マイナス、Bの二乗はえーとえーとえー

えー。

級長 早く思いだし給え、おい蝦原、キヤラメルを喰べたかないかい、ほらこんないい色をしているよ。

蝦原 喰べたいよ。それを喰べると、公式を思いだすかも知れない。

級長 駄目駄目思ひ出さなきや絶対にやらないよ。あつそうだが、君に頑張ってもらうため、おまけを一つつけるよ。ほらチョコレート一つおまけだ、チョコレート喰べたかないかい。

蝦原 喰べたいよ喰べたいよ、口の中にツバがたまってきたよ。

ああたまんない、目の毒だ。目をつぶつちやおう。Aの二乗、マイナス、Bの二乗はえーと、えーと、AマイナスBの二乗……じゃないや、AマイナスBとそれからキヤラメル、いやち

がった。ええうーんあつ、そうだ、わかったわかった、A マイナスBとAプラスBの積だ！

級長 蝦原えらい！ それでいいんだ。こんどはもう忘れちゃ駄目だよ、ほらキヤラメルとチョコレートをやるよ。

蝦原 どうもありがとう（と早速^{さつそく}ホオぱり、口をもごもごさせながら）ああうまい、ホオペタがおつこちそうだ。

級長 公式を思いだしたら、問題を早く解いてしまいなよ。ほらここだ。A マイナスBがこつちにもあるから、A マイナスBでくくれるじゃないか。

蝦原 ああ本当だ。A マイナスBでくくつてあとは、えーと3A プラス2Bと、A プラスBか、ねえ、これから先、どうするの。

級長 いやんなつちやうね。それで出来たんだよ、それが答なんだよ。

蝦原 えっこれが答かい、なあんだ。訳はねえや。うふふふ、代数ってなかなか面白いもんだねえ。

級長 あははは、蝦原の奴代数が面白いっていったぞ。あははは。生徒 代数よりキャラメルの方がうまいだろう。

級長 えっへん、これは誠に由々しき一大事じや、勉強組合ばんざいだ。

生徒大勢、あはははと朗ほがらかに笑う。

街の遠くから、出征しゅつせい兵士へいしを送る「天かに代わりて」の合唱近づき来る。

……—幕—……

第二景 夢の中の模擬試験もぎしけん

音楽。夢の曲（トロイメライの如く）

受験生青木 はて見なれない所だなあ。どうして僕は今ごろ、こんな野原を歩いているんだろうねえ……おや、変だなあ。とつぜん目の前に、立て看板が出たよ。なんだ？

もぎしけんじょう 模擬試験場と

書いてある。模擬試験なら、受けると自信がつくから受けても

いいんだが、どこにあるんだろうね。

女教師　もしもし青木さんここへいらつしやい。

青木　はあ。……いつの間に先生はお出でになったんですか。あ
あ机も腰かけもありますね。ああ、わかりました。これが模擬
試験場なんですね。

女教　さあ皆さん、揃いましたから問題を出します、ようござい
ますか。或るところに卵売りのお婆さんがありましてねえ、若^じ
やつかんかご干個籠かんかごに入れて、町へ売りに行きましたの。最初の家では、

卵の半数と一個の半分とを売りました。次の家では、残りの卵
の半数と一個の半分とを売りました。それから最後の家で、残
りの卵の半数と、一個の半分とを売って、それで全部売りつく

しました。最初籠に入れてあつた卵は何個だったでしょうか。但し、この卵売は卵を實際半分に割つたりしないで、うまく三軒の家に完全な卵を売りました。これを代数で解いて下さい。青木 先生もう一度いつて下さい。

女教 はい、もう一度申します……卵売りのお婆さんが卵を若干个、籠に入れて、町へ売りに行きました。最初の家では卵の半数と一個の半分とを売り、次の家では残りの卵の半数と一個の半分とを売って、最後の家で、残りの卵の半数と、一個の半分を売ってそれで全部売りつくしました。最初、籠にあつた卵は何個だったでしょうか。但し卵は、いつも割らずに売りました。これを代数で解いてください。

青木 やあ面白いなあ。まるでナゾナゾの問題だ。これを代数で解けとは、ますます面白い。まず卵の総数を X と置いて、それから……。

女受験生房子 はい先生、できました。

青木 あれっ、もう出来た子がいるよ。

女教 はい房子さん、出来たんですね。どういふ式を立てたか、そこで読みあげてごらんさい。

房子 はい。まず最初の家で売った卵の数は、 X を二で割って、そこへプラス二分の一個です。これをまとめますと、分母が二、分子が X プラス一となります。仮りにこれを A と置きます。

女教 A とおくのですか、それから……。

房子 さて、次の家で売った卵の数は残りの卵の半数ですから、 X マイナス A を二で割ったものと、そこへ二分の一個を足したものです。このうち A は前に出ていますから、それを代入しまして、結局第二番目の家で売った数は分母が四、分子が X プラス一となります。これを B と置きます。

女教 それまではよろしい、それから……。

房子 最後の家で売った卵の数は、 X マイナス A マイナス B 、これを二で割ったものと、そこへ二分の一個を足したものですから、これは分母が八、分子が X プラス一となります。これを C と置きます。

女教 それで答は？

房子 Xイコール、AプラスBプラスCですからこれを解いてXは七個となります。

女教 御名算ごめいさんです。はじめ籠の中にあつた卵は七個でした。

△音響、パチパチと大勢の拍手

青木 どうも驚いた。子供のくせに随分出来るんだなあ、僕もつと代数を勉強しなきや駄目だ。あーあー教だんに別の先生が現われたぞ、今度はひげのお爺じいさん先生だ。

老教 これこれお前たち、わしの見るところでは、お前たちはどうも教科書に征服されたり、試験に吞まれたりしていてもいかんね。お前たちはもつとゆつくりした気持で勉強せんけりやいかん。さあそこで奇抜きばつな問題を出すぞ。この答案がうまく

出来れば試験パスじゃ。これは りつたいきかがく 立体幾何学の問題じゃ、えーと、「幾何学をもって幽霊の存在を証明せよ」どうだ分るか、もう一度いう「幾何学をもって幽霊の存在を証明せよ」問題はそれだけじゃ。

△音響、大勢がやがや。

老教 これ、しずまれ。おい青木、お前一つ解いてみる。さあ立て、男らしく立て。

青木 はあ、幽霊を幾何で証明しろなんて、そんな変てこな問題は解けません。

老教 なんでもいいから立てというんだ。立てば、わしがここからそつと電波を出してお前に教えてやる。

青木　そうですか、教えてくれますか、はい立ちました。先ず平面の世界を考えます。おやおや、これはおかしい。ひとりでに僕の口がすらすらとしゃべりださあ。

老教　まず平面の世界を考えます。それからどうするんだ。先をしゃべれ。

青木　はい先生、平面の世界では縦じゆう横おうの長さはありませんが、高さというものを知りません。僕達は立体の世界に住んでいるので、縦横、高さ、皆分っています。平面の世界の一例は静かな水面です。水の表面だけの世界を考えて下さい。そして、そこに住んでいる生物をも考えて下さい。

老教　よしよし、それから。

青木　今ここに卵が一個あります。この卵は勿論立体です。その卵を指でつまんで水面に近づけます。そしてそつと放します。さあ、どうなるでしょうか。もちろん、卵は水面を通りぬけて水中に落ちます。さあ、水面の世界の生物には卵が通りぬけるとき、これがどの様ように見えるでしょうか。

老教　はて、どの様に見えるかなあ。平面の世界では、卵に高さがあることは理解できないのじやから。

青木　まず最初、卵が水面に触れたせつ那なを考えましょう。水面の世界では、これが一つの点としか見えません、何しろ、水面より高いところも低い所も見えないのですから。

老教　うむ、なるほど。

青木 そのうちに卵はだんだん水につかつて落ちます。水面の世界ではこれがどんな風に見えるでしょうか。いきなり目の前に一つの点が現われたと思う中に、それが見る見るおおきく円形になって広がってゆく。そして遂にその円形が最大値に達すると、今度は逆に小さくなって行きます。つまり卵が半分以上水につかると胴が細くなるから、水面に接している面積が小さくなってゆくのです。その中に遂に点になり、そして消え失せます。水面の世界では、卵が落ちていったんだとは知らない。はじめは目の前に点が現われ、それが見る見る大きく拡^{ひろ}がってゆくと見る間に今度はどんどん小さくなりはじめ、やがてぱつと消えて了^{しま}った。何だか訳が分らないものを見た。これこそ予^{かね}て

聞き及んだ幽霊というものだろうと思うでしょう。

老教　ごたごたした云い方かたじゃが、まあそのへんだらうね。それからどうなる。

青木　それから……今度は我々の立体世界に現われる幽霊を証明します。我々人間は縦たて、横、高さの三つしか知らないが、今ここに、もう一つなにか人間の感じないものを備えている超立ちようり体世界つたいせかいがあつたとしましょう。この超立体世界の卵かなんかが、いま突然我々の目の前をとおりぬけたとしたら、それほどんな風に見えるでしょうか。まず、はじめはぽつんと点があらわれますね。それが見る見る膨ふくれてやがてゴム毬まりのようになり、更にだんだんおおきくなって、ガス・タンク位になりました。

と思うと、今度はどんどん縮みはじめて、あれよあれよといううちに、元のゴム毬位の大きさになり、やがてぱつと消えてしまいました。さあ人間はびっくり仰ぎょうてん天、これをなんていうでしょうか「ああ、わしは今そこで幽霊を見たよ」って！

つまり、超立体世界のものが我々の立体世界に交まじわると、それが幽霊に見えるのです。

△幽霊の消える擬音ぎおんと怪奇音楽かいきよろしくあつて……。

第三景 受験生の親達

△遠くでラジオが聞えだす。(浪花節なにわぶしか義太夫ぎだゆうか)

受験生の母親 えー、頭足類とうそくるいはたこに、いいだこに、ま烏賊いか、

するめ烏賊、やり烏賊の五つ。この頭文字を読むと、たいます

や。えー次は、腹足類ふくそくるい、これは四つ、あわびにとこぶしに、

さざえ、たにし、この頭文字を読むと、あとさた。えー、たい

ますやに、あとさた……。

△この辺で大きな鼾いびきの音が聞えだす。

母親 えー次は斧足類ふそくるい。蛤はまぐしに蜷しじみに……。

△鼾いびきが一段と高くなる。

母親 あーら、なんでしよう。ああ鼾いびきだわ。誰の鼾いびきでしょう。お

父さんはまだだし、ねえやは留守だし、するとーすると道夫かしら。あ、道夫だ。受験準備の勉強を怠おこたつて居いねむり睡むりをするなんて、まあ情けない人ね。

△音響、晝をけつてたち、隣りんしつ室ふすまの襖ふすまをあける。

母親 まーあ、道夫、なぜ居睡なんかするんです。そんなことじやあ、高等学校の入学試験が受かりませんよ。さあ起きなさい。元氣を出して。

道夫 ああつ、ああーつ。今日は睡ねむいなあ、お母さん、今日は体操の時間にうんと駈かけ足あしをしたんで、睡ねむいんですよ。

母親 あーら、そうかい。困ったね。まだやらなければならぬ問題がうんとあるんだよ。一晚に七十五題はやるようにしない

と、入学試験までにとても受験書を皆すませやしないわ。元氣を出してよ。お母さんはおが拝むから。

道夫 だって睡いんですよ。脳髓がまるでよそから借りてきたみたいで、ちつとも働かないんです。

母親 まあ、いけないわねえ。じゃ仕方がない。頭を悪くしちやだめだから、今日はもうお寝やすみなさい。ぐーつと睡るといいわ。
睡眠すいみんざい剤をのんでやすむのよ。いいかい。

道夫 (いよいよ睡そうに) えーえ、あーあー、

△蒲団ふとんを出す音。母親は襖をしめて、もとの茶の間にかえつてどざりと座る。

母親 本当に道夫に代ってやりたいわねえ、あたしなんかちつと

も睡かないわ……さあ、もつと先を勉強しておきましょう。道夫がどの位勉強したかを験ためすのは、あたしが道夫以上に、何でも覚えてなくちやいけないんだわ、一人ひとり子の母親つて、誰でもこんなによきもきするものかしら。（気分をかえて）えー斧足類は蛤かきに蜺かきに牡蠣かき、あさり、あげまき、帆立ほたて貝がい、赤貝、ばか貝。

△音響、格子ががらとあく。（父親の帰宅）

父親 なんだ。赤貝にばか貝が大変な御馳走だ。しかし、ばか貝は止よしてくれ。青柳あおやぎという粹すいな名があるじゃないか。

母親 お帰りなさいまし。あなた、御飯はもうお済みになりましたの。

父親 どういたしまして。これから洋服をぬいで、そのの長火ながひば
鉢ちの前で御馳走になるてえ順序でござんす。

母親 まあ……。

△洋服をぬぎ、洋服かけがちやつく。同時に膳部ぜんぶの仕度の

音、薬罐やかん、飯櫃おひつの音。

母親 さあ、どうぞ。

父親 よお、どっこいしよ、と……ああ道夫はどうした。

母親 あのう、たいへん睡くて、脳髓がお豆腐とうふのようになりそう

だと、こう申しますので、お先に寝かしてやりました。

父親 おおそうかい。道夫も此頃このころ受験準備で、可哀想かあいそうな位つ

かれているね。すぐ寝かしてやったとは、お前にしちや大出来おおでき

だ。

母親 さあ、どうぞ。

父親 ああ。山やまもり盛よそつてくれ。ああ腹が減った。

△音響、茶碗を盆ぼんにのせる音。つづいて飯櫃をひらく音。

父親 おや、赤貝に青柳が出ていないぜ、おい、どうしたんだ。

母親 はい。大山盛です。

△父親、飯を頬ほおばる。

父親 赤貝に、青柳に……。

母親 あーら、いやですわ。あれはあたしが動物学の暗誦あんしやうを

していたんですわ。

父親 (飯を頬張りながら) 動物学だって。

母親 ええ。つまり、斧足類の動物と申しますと、蛤だの、蜆だの、あさりだの、それから赤貝やばか貝でございますの。

父親 なあんだ。御馳走じゃなかったのかい。それは一向いつこうつまらんねえ。(気をかえて)しかし、なぜお前が赤貝やばか貝を暗記する必要があるんだ。

母親 あなたア！ あ、あ、あなたア！

父親 ななな、なあんだ。急に、か、金切り声かなきごえなど出しやがって。

母親 失礼いたしました。ではございませうが、あなたは道夫に対し、たいへん冷淡れいたんでいらつしやいます。道夫が、あの通り受験準備のため、好きなレコードをきくことさえよしていますのに、あなたは道夫の入学試験のことを、ちつとも心配しておや

りにならないんですもの。

父親 冗談いうな。俺はどんなにか心配を——。

母親 まあ、あたくしの申すことをお聞きあそばせ。あたくしな

んか、道夫と一緒にあって受験勉強をしているのでございます

よ。頭とうそく足類、腹ふくそく足類、斧ふそく足類などを暗記しておりますのも、

道夫以上に母親が知っていれば、道夫がはっぶん奮ふん奮ふんすると思うから

でございますよ。それから、あたくしは、新聞の広告面を毎日

隅から隅まで目をとおしまして、なにか新刊で優秀な受験準備

書がありますと、すぐ本屋へとんで行って買ってまいります。

そしてまずあたくしが読んでみまして、他の受験書に出ていな

い問題を選びわけまして、道夫に毎日毎日やらせているのでご

ございますよ。あたくしは、いやしくもわが国において印刷になった練習問題なら、一度は必ず道夫にやらせておかなければ、枕を高くして寝られないのでございます。そのお陰で道夫は入学試験のとき、どんなに楽だか知れません。それほどあたくしが……。

それなのに――。

父親 おい御飯だ、お代りだ。

茶碗と飯櫃おひつの音。

母親 あなたはあまりに冷淡れいたんです。

父親 ばかをいうな、お前が熱心であることは認めるが、そんなやり方は感心できない。

母親 とんだことを仰おっしゃ言います。

父親 なあに、本当のことをいつているんだ。無茶苦茶に暗記をしたり、それから、また無茶苦茶に受験書を買いあつめたりするのは愚ぐの骨こつちよう頂だよ。そんな詰めこみ主義は役にたたんばかりか、むしろ反対に害がある。常識上重要な原理さえしつかり覚えていれば、いいんだよ。受験書なんか、一冊で沢山だ。この間も勘定したら、お前は漢かんぶん文の受験参考書だけでも二十七冊も集めていやがった。まるで蒐しゆうしゆう集マニアだ。

母親 蒐集マニアだなんて、まあひどい。あなたの原理主義なんかに従っていると、高等学校のあのむずかしい問題なんか、一題だって出来やしませんわ。

父親 お前がそんなに勉強しているのならちよつと尋ねるが、颶風が近づいてね、いいかい、真東から風が吹いているんだ。しからば颶風の中心はどの方角にあるか。

母親 颶風の中心ですって、そんなこと試験問題集に出ていませんわ。

父親 それ見ろ、知らないじゃないか。これからの試験にこういう常識上知っておかなければならぬ問題が出るんだぞ。参考のため教えてやろう。いいかね、真東から風が吹いていれば、颶風の中心は南南西よりちよつと西よりの方角にあるんだ。大ざっぱにいうと、風を背にして立って左手を斜ななめまえ前へ出す。それが大体、颶風の中心を指すさ。どんなものだい。

母親　へへん、さよでございますか、じゃあこんどはあたくしが
うかが伺いますわ。東洋歴史で、中国でべんぱつれい辮髮令が出たのは何年でござ
 いますの。

父親　知らん。

母親　あーら、御存知ありませんの、あれは西歴で一六四五年で
 ございますわよ。ほほほほ、じゃあせきへき赤壁たたかいの戦は何年でござい
 ますの。

父親　知らんよ。

母親　えへん、西歴二〇八年。ではネルチンスクの条約は。

父親　一々おぼ覚えとらん、そんなものはねんだいひよう年代表をめぐればすぐ
 分る。

母親 でも御存知ないのでは、入学試験に合格しませんわ。

父親 ばか、そんな無駄な暗記は意味がないよ。辯髪令の年号なんか何の役に立つんだ。

母親 だからあなたは冷淡だと申すのですわ。万一辯髪令の年号が試験に出て、道夫が答えられなかったその時は、落第でございますよ。一人息子を落第させるなんて、あなたは鬼おにか蛇じゃか、実になんという……。

隣室の襖ががらりと開く（道夫起き出る）

道夫 お父さんもお母さんも、やかましくつて、僕ねむくなくなっちゃった。久し振りに、レコードでもかけようかな。

母親 これ道夫。

父親 なあに、かけさせておやりよ。お父さんはお前を慰安して
やろうと思つて、そこにレコードを買つてきたよ。

母親 まあ、あなた。一体どんなレコードを買つていらしたの。

道夫の勉強の邪魔を……。

父親 まあ、そう心配しなさんな。おれは道夫を喜ばせ、且つ愉

快に勉強させてやろうと思つて、これを買つて来たんだ。これ

いちめい おやごころ
一名 親 心のレコードという。道夫、さあ、かけてごらん。

「算術の歌」というラベルの方だよ。

道夫 はい「算術の歌」の方ですな。

△レコード「算術の歌」賑かに廻る。

青空文庫情報

底本：「海野十三全集 第1巻 地球要塞」三二書房

1990（平成2）年4月30日第1版第1刷発行

底本の親本：「十八時の音楽浴」ラヂオ科学社

1939（昭和14）年5月5日発行

初出：「家庭コント 新学期行進曲」JOAKラヂオドラマ台本

1938（昭和13）年9月30日放送

※「西歴」は底本通りです。

入力：土屋隆

校正：田中哲郎

2005年4月1日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新学期行進曲

海野十三

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>